

市長と語る会(令和4年8月1日)における意見及び市長の回答

No	意見	回答
1	<p>地域包括支援センターを運営しているが、コロナ禍で、人と人とのコミュニケーションが難しくなっている。街角にベンチを置くなどして、地域の人同士が会う機会を増やすことが、地域のつながりに通じ、日頃の相談活動の延長上にあると思う。</p>	<p>高齢者に何とか外に出ていただきたいということは同じように思います。孤立化が一番よくないと認識していますので、公園や文化センターなどで、福祉コーディネーターの皆さんのお力を借りて、憩いの場であったり、情報交換の場となるように充実していかなければいけないと改めて思いました。</p>
2	<p>わがまちささえあい協議会として、フードパントリー、地域の清掃などし、地域の橋渡しをするよう活動しています。</p>	<p>皆さんには非常に熱心に活動していただき、高齢者が孤立化しないように働きかけをしていただいていることに非常に感謝しています。お気づきの点がありましたら、市にご連絡ください。</p>
3	<p>コロナ禍で子ども食堂を休止し、フードパントリーを行ってきたが、本来の子ども食堂の活動に戻ると難しくなるので、わがまちささえあい協議会でフードドライブを充実させる方策があるとよい。</p>	<p>皆さんの活動を本当に熱心にやっていただいて、大変ありがたいと思います。いろいろなサークル、活動が、5、6年ぐらい前から、皆さんのおかげで盛んに行っていたようになってきましたので、コロナがある程度収束が見えてきた段階で、地域の中でどうしていったらいいかということ、住み分けをする必要はないと思うのですが、皆さんで意見交換できる場というのが必要だと思えます。</p>
4	<p>地域包括支援センターで事業を行っているが、コロナ禍で参加する人と参加しない人が二極化している。参加しない人に対して、どのようにアプローチしたらよいか課題に感じている。</p>	<p>二極化していることを現実として受け止めて、外にお出にならない高齢の方々をどのように見守っていくか、どのようにアプローチしていくか、これを大きな課題として皆さんと共通認識をもち、今後考えていくことが大事だと思います。</p>
5	<p>コロナ禍で人との交流が上手くいかないと感じている。若い人でもフードパントリーに参加できるようにお迎えする気持ちを持って活動している。また、子どもの見守りについて、子どもと関わる上で、マスク着用により本音が伝わりづらいと感じる。</p>	<p>コロナ禍で大変活動しにくい部分があると思いますが、引き続き温かく迎えていただければありがたいです。子どもの見守りについては、いずれマスクを取って交流できる日が来た際に、地域の力が重要になると思います。</p>

No	意見	回答
6	<p>わがまち支え合い協議会の活動を知ってもらうため、文化センター祭りなどに参加し、活動をPRしているが、コロナ禍で活動がなかなか浸透しない。</p>	<p>地域の方に実際の活動を見ていただき、気づいていただくことは、そこに接点ができるので、非常に大事だと思います。今はコロナで制約がありますが、ここはじっと耐えるところは耐えて、活動を広げられる、そのチャンスが必ず来ると思うので、それまでの間にいろいろな議論を共に交わさせていただきたいと思います。</p>
7	<p>地域の住民の日常生活の中で行われる緩やかな見守り、ボランティアの方ですとか民生委員さんによる見守り、包括支援センターのような機関が行う専門的な見守りと、地域の見守りは3つあるが、1つ目の緩やかな見守りが、地域が増えていくことが、より皆さんが安心して暮らせるまちにつながっていくのではないかなと思っている。市としても緩やかな見守りという意識の醸成を市民の皆さんにさせていただけるような取組をお願いしたい。</p>	<p>あまり無理なく見守っていただけるような、そういう気持ちを持っていただくことが大事だと思っています。日常の緩やかな見守りについて、市の関係部署で広報活動等を検討していきます。</p>
8	<p>花植えや掃除などを行う子どもボランティア体験を行っているが、市の部署と調整し、市民花壇の運営をある程度自分たちの自由裁量でできるようになった。同様に公園や学校の運営に市民が入れるような開かれた形を進めて欲しい。</p>	<p>市が公として適正に管理し、そして公正に、公平に市民の皆さんに使っていただけるようにしようと思っていることなのですが、そこで1つ垣根を乗り越えてお互いの信頼関係で、よりよい相乗効果が表れてきた事例だと思います。愛着の醸成こそが我がまちに対してふるさとの感覚を持ってくれるわけですから、今のお話は非常にありがたいと思います。</p>
9	<p>市の協力で子育て世代にフードパントリーのメール配信をしたところ、利用者が増えた。また、外国人の方に対しては、ニーズに合った食品を用意して提供している。</p>	<p>フードパントリーなどは心がつながるきっかけであると感じました。外国人への支援も大事なことだと認識しています。市としても人々のつながる機会を作るよう取組を継続していきます。</p>

No	意見	回答
10	地域包括支援センターの取組として、学校で認知症サポーター養成講座を行った際、子どもたちから、困った人を助きたい等の意見があった。住みたい地域は自分達で作っていくものであり、地域の支え合いのためには、子どもやその親への意識付けが重要であると感じている。	子どもたちにしっかりといろいろな機会に働きかけをしていただいているので、子どもたちが素直に助けたいと思ってくれているのだらうと思います。ですから子どもを通して、保護者の方にも地域の福祉の支え合えることの大切さというのを伝えていけるようにしたいと思います。
11	わがまちささえあい協議会の活動にあたり、地域とコミュニケーションをとるため、自分たちで動く必要があると考えている。老人クラブ、PTA等に直接ご挨拶に行くことが大事だと思う。	横断的な地域のつながりをつくっていただき、ありがとうございます。市としては、新しく地域にお住まいの方と連携できるような地域づくり、学校づくりを行っていく必要があると思います。
12	ちらしをポスティングしたら、地域の現状がよくわかった。また、フードドライブの活動の際、文化センターの1階フロアを借りられればよいと思う。	活動にご負担をおかけしないよう、市として出来ることを検討します。
13	子ども食堂を行っていますが、常連の方がしばらくいらっしやらないと何かあったのかなと感じるところがあって、それは心のつながりなのかなと思っている。	今後もいろいろな環境の変化で来られない方がいらっしやったときには、情報共有していけるようにしなければいけないということを改めて思いました。
14	地域包括支援センターで事業を行っているが、コロナ禍で参加できなくなった方へのアプローチが課題となっている。例えば、ベンチを置ける場所や、ごみ出しの際の立ち話ができるような憩いの場があればよいと思う。また、移動販売車が地域に来ることも、顔なじみができると思う。	時代の変化で通信販売が増えてきましたが、見守りや支え合いにおいては、人とのつながりができることが必要だというのは、重要な視点だと思います。
15	文化センター内に、子ども食堂の活動の物品を置いたり預けたりする場所を設けてもらいたい。また、通常の予約とは、別枠で場所の予約をできるようにしてほしい。	活動の物品を文化センターに置くことについて、対応できるように検討します。予約の別枠は難しいかもしれませんが、使いやすい文化センターとなるように検討していきたいと思ます。